

地域金融機関の競争と企業の借入コスト 構造推定アプローチ

金融庁・東京大学（CARF）共催シンポジウム
2026年6月24日

片桐 満（早稲田大学・TDB-CAREE）
若森 直樹（慶應義塾大学・TDB-CAREE）

注意事項

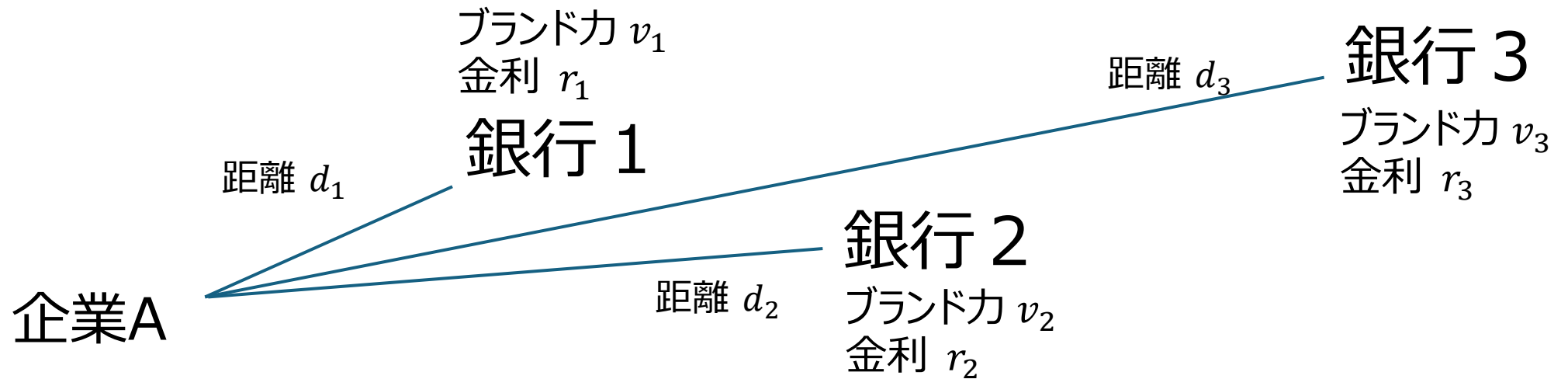
- 本日のプレゼンテーションは実務家の方に向けたものです。
- アカデミックな形式のプレゼン資料をご覧になりたい方は、英語版をご参照ください。

研究の背景・問い

- 世界各国で「金融サービスのデジタル化」や「銀行合併」が進む中、銀行の支店閉鎖等に伴う中小企業の金融機関へのアクセシビリティも変化。
- 企業と潜在的貸し手の距離は、金利に影響を与えることが知られている。
(Degryse and Ongena 2005, Journal of Finance)
- **問い**：金融機関へのアクセシビリティは、貸出金利に影響を与えるか？
→ 「**構造推定**」のアプローチを用いて、日本のデータを用いた推計を行った。
(実験や因果推論とは異なる、経済の実証分析のアプローチの一つ)

構造推定 = 経済理論でデータを補完する

- 経済理論的には、金利は複数の銀行が競争する結果として決まる。



銀行1から借りた場合の効用 : $v_1 - \gamma d_1 - r_1$

銀行2から借りた場合の効用 : $v_2 - \gamma d_2 - r_2$

銀行3から借りた場合の効用 : $v_3 - \gamma d_3 - r_3$

銀行 i の貸出コスト : θd_i

銀行1から借りてもらう条件 :

$$v_1 - \gamma d_1 - r_1 > v_2 - \gamma d_2 - r_2$$

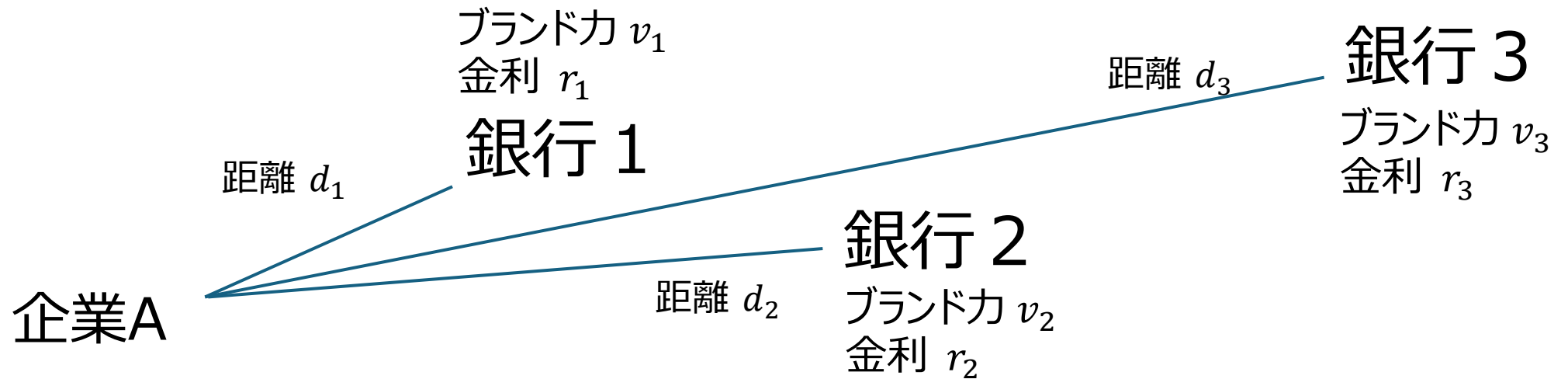
銀行1は借りてもらいつつも r_1 をできる限り高く設定したい

$$v_1 - \gamma d_1 - r_1 = v_2 - \gamma d_2 - \theta d_2$$

$$r^* = v_1 - v_2 + \gamma(d_2 - d_1) + \theta d_2$$

構造推定は反実仮想分析を可能にする

□ 銀行 2 がなくなった場合、銀行 1 の貸出金利にどのような変化が見られるか？



銀行1から借りた場合の効用： $v_1 - \gamma d_1 - r_1$

銀行2から借りた場合の効用： $v_2 - \gamma d_2 - r_2$

銀行3から借りた場合の効用： $v_3 - \gamma d_3 - r_3$

銀行 i の貸出コスト： θd_i

銀行1から借りてもらう条件：

$$v_1 - \gamma d_1 - r_1 > v_3 - \gamma d_3 - r_3$$

銀行1が設定する金利

$$r^{**} = v_1 - v_3 + \gamma(d_3 - d_1) + \theta d_3$$

d_2 より d_3 の方が大きいので r^* は高い金利になる！

データセットの構築

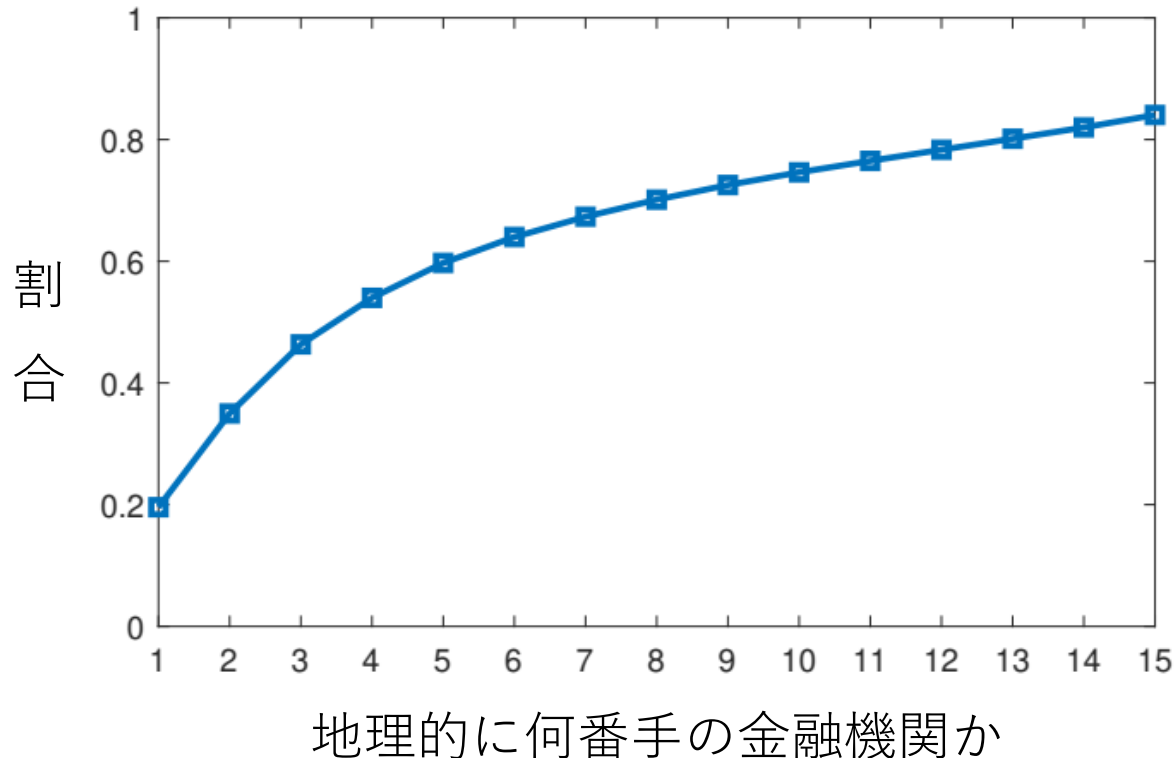
- 以下の2つのデータを**銀行コードと支店コード**をキーとして接続
 - **帝国データバンク**（企業レベルのデータ）
 - 企業レベルの情報（借入額、売上高、ROA、本社の住所など）
 - 取引している上位10個の銀行の支店（**銀行コードと支店コード**）
 - 先行研究（Hosono et al, 2016）に倣い、1位の銀行をメインバンクとして分析
 - **金融名鑑**
 - 日本全国の金融機関の支店を網羅
 - 支店の住所、従業員数、**銀行コードと支店コード**
- 各企業から近い順に15個の金融機関を潜在的な貸し手として設定

データの記述統計

	観測数	平均	標準偏差	p5	p50	p95
メインバンク						
距離 (km)	871,527	3.18	3.75	0.27	2.00	9.95
ライバル金融機関						
1 番手までの距離 (km)	871,527	1.41	1.54	0.14	0.90	4.52
2 番手までの距離 (km)	871,475	2.17	2.81	0.31	1.36	6.65
3 番手までの距離 (km)	871,352	3.01	5.61	0.47	1.78	8.78
4 番手までの距離 (km)	870,860	3.63	6.34	0.61	2.15	10.56
5 番手までの距離 (km)	870,242	4.29	10.22	0.73	2.47	12.26
企業レベルの変数						
金利 (%)	871,527	1.86	1.26	0.38	1.65	4.04
資産 (百万円)	871,527	1.12	10.02	0.02	0.23	3.75
ROA	871,527	0.03	0.09	-0.09	0.02	0.17
自己資本比率	871,527	0.31	0.22	0.03	0.27	0.73

本当に近くの銀行から借りているのか？

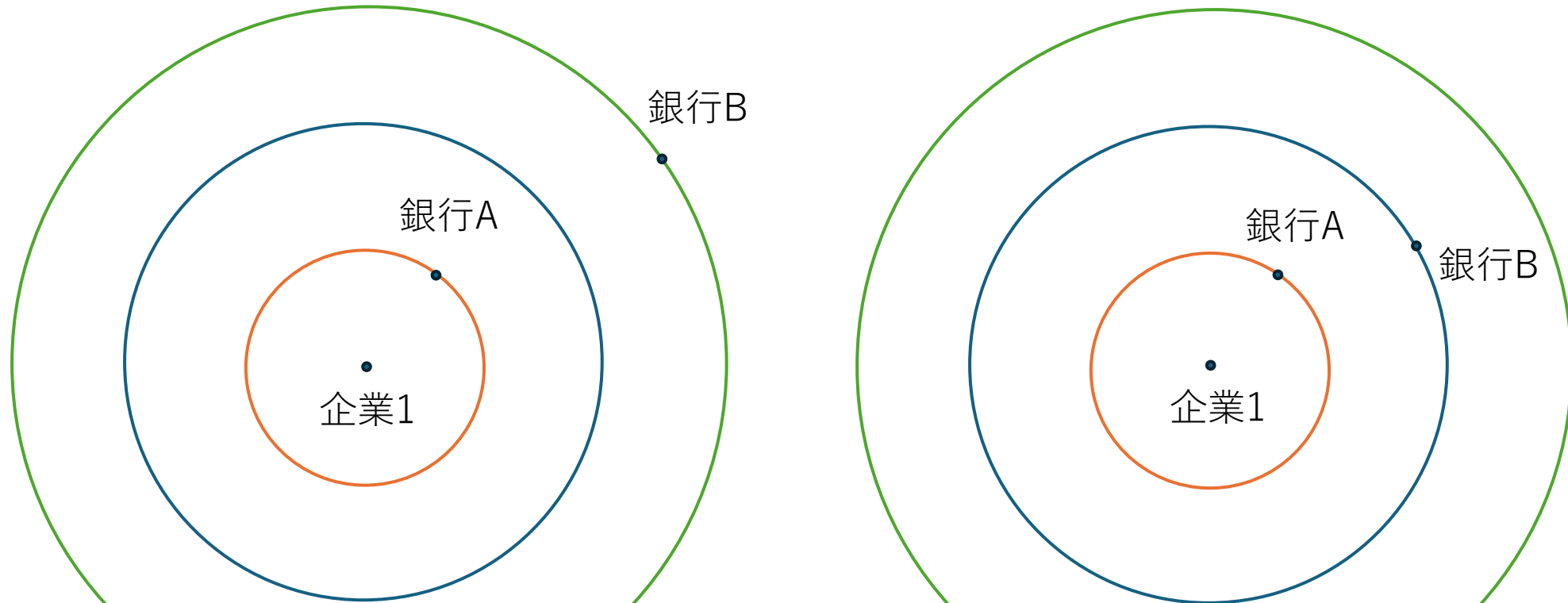
図：地理的に何番手の金融機関がメインバンクになっているか



- 地理的に1番近くの金融機関から借りている人が最多（約20%）
- 10番手以降から借りている人は、多くない（約20%）
- 金融機関への地理的な距離は重要（地理的に近い金融機関を利用する傾向）

ケース1：ライバル銀行の距離が違う場合

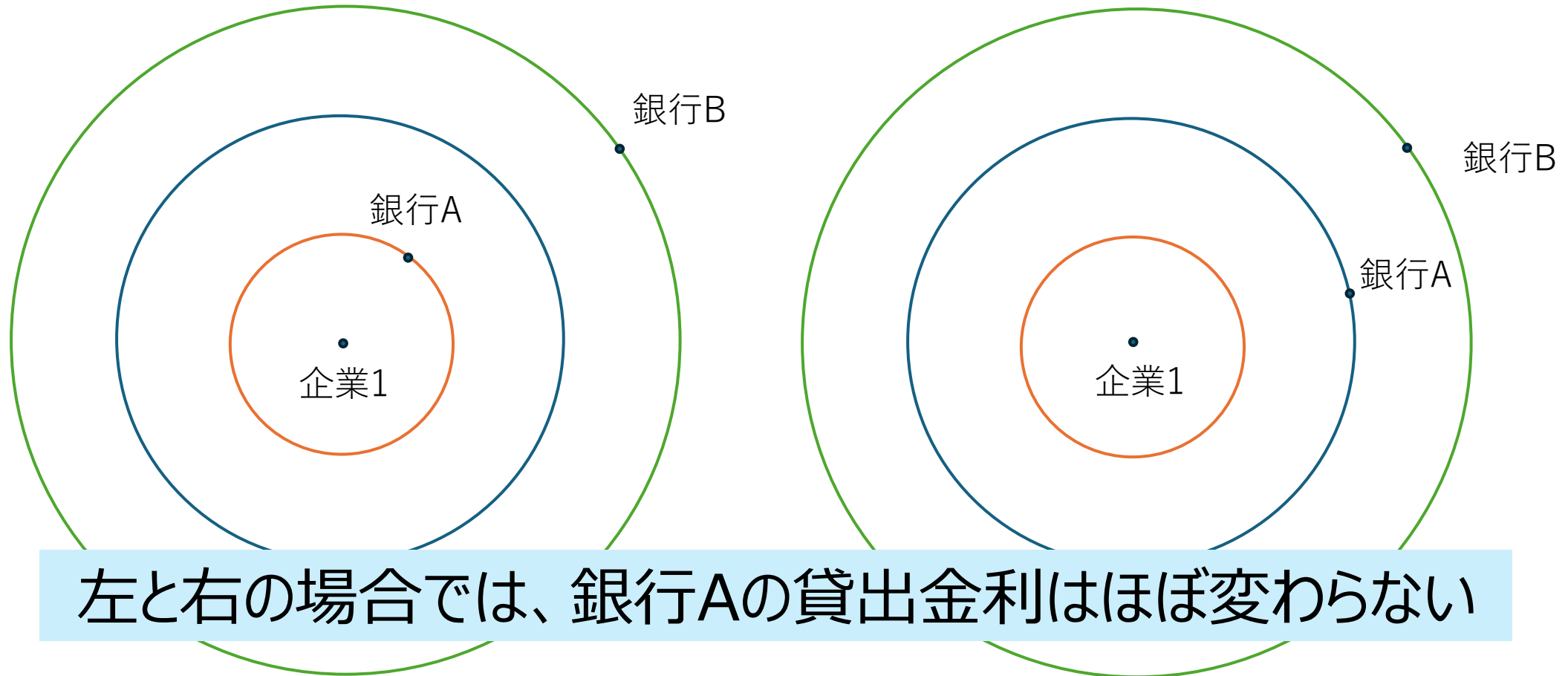
- ライバル銀行Bと融資先企業との距離が異なる場合の銀行Aの貸出金利



左の場合の方が、銀行Aの貸出金利は高くなる傾向

ケース2：貸し手との距離が違う場合

□ライバル銀行Bの位置は固定、銀行Aと融資先企業との距離が異なる場合



左と右の場合では、銀行Aの貸出金利はほぼ変わらない

構造推定の結果：距離の影響

	推定値	標準誤差
借り手の効用 ($-\gamma$)	-0.022	0.014
貸し手の費用 (θ)	0.065***	0.005

- ❑ 企業の観点から、銀行は近くにいた方がわずかに嬉しい（アクセシビリティ）
- ❑ 貸し手にとって、企業が遠いほど、貸出コストが上昇（モニタリング・コスト）
- ❑ 推計結果は、ライバルとなる支店との距離が重要であることを示唆している。
 - ❑ ライバル銀行と企業の距離（**ケース1**）：1 kmあたり、金利は約0.09%上昇
 - ❑ 貸し手と企業の距離（**ケース2**）：1kmあたり、金利は約0.02%低下

理論モデルによる説明

□ **ケース1** : ライバル銀行と企業の距離が遠いほど、貸出金利は高くなる。

→ 貸出コストが距離に比例して高くなる (θ) ため、地理的に遠いライバル銀行は、価格競争力の観点から競争相手としての影響度が小さい。

□ **ケース2** : ライバル銀行と企業間の距離を固定した場合、貸し手と企業との距離は、貸出金利にほとんど影響しない (わずかに上昇) 。

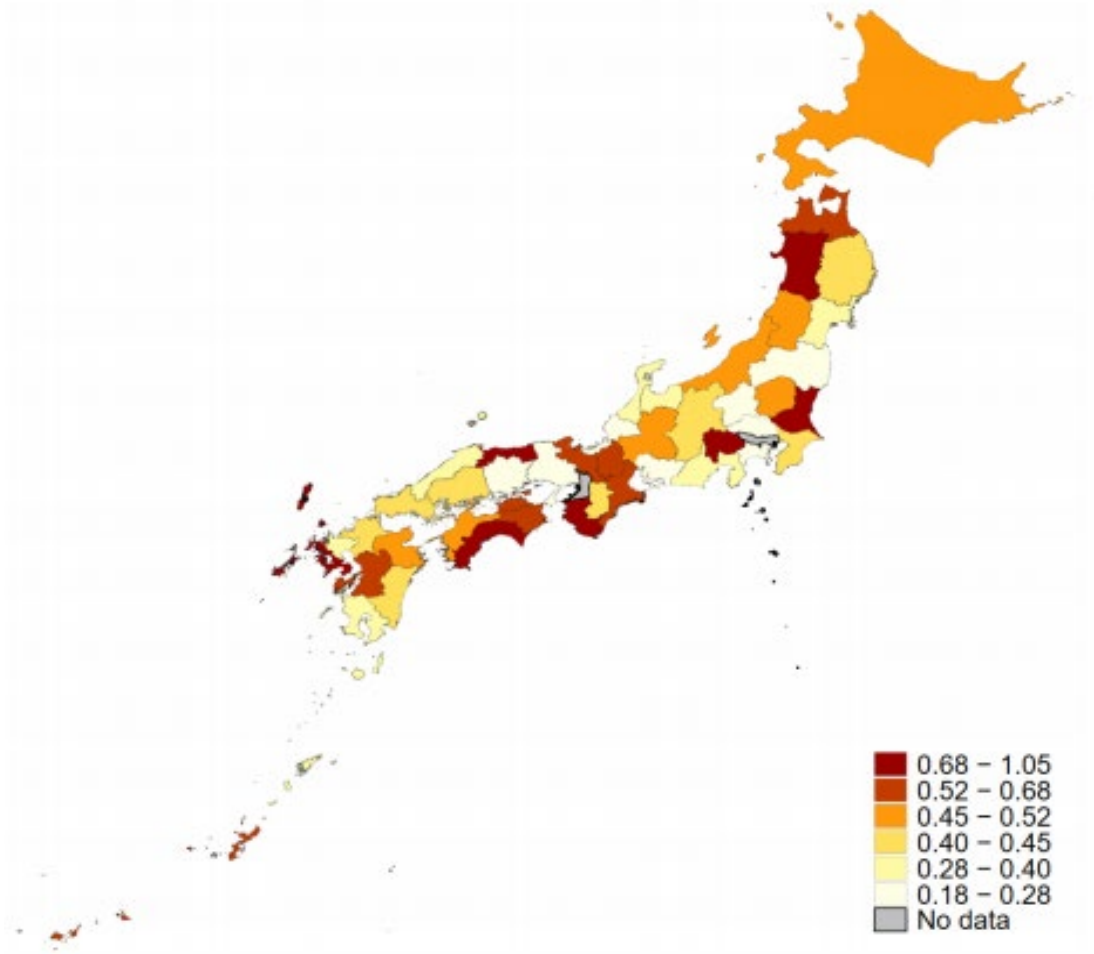
→ 借り手が、地理的に近い貸し手を好む傾向 (γ) はあまり大きくない。

→ 貸し手は、融資先企業に近い (遠い) ほど貸出コストは低く (高く) なるものの、それによって貸出金利を変えるインセンティブはない。

反実仮想実験

- 推計されたモデルを用いて、仮に、銀行の合併によって支店の統廃合が進んだ場合、どの程度の金利上昇が長期的に観察されるかを計算できる。
- 仮想的なケーススタディとして、「**各県の貸出先数でみた第2位の金融機関が、合併等によって全ての支店を閉鎖したケース**」の影響を考える？
 - 定量的なイメージを掴むためのやや極端なシナリオで、このシナリオが尤もらしいということではない。
- 貸し手が閉鎖した企業や、ライバルとなる支店が閉鎖した企業は、借入コストの上昇に直面する可能性。

反実仮想実験の結果



- かなり極端なシナリオにもかかわらず、平均的には、それほど金利は上昇しない。
- ただし、企業・地域間で影響に大きな違いがある。
- 特に、代替的なライバル行がいるかどうかで、影響が大きく異なる。

政策インプリケーション

- 現状の競争環境を所与とすれば、多くの地域において、支店の統廃合による貸出金利の設定動向に大きな変化が生じる可能性は低い。
- ただし、既に金融機関の間での競争度が低下している地域では、アクセシビリティの低下によって、貸出金利の上昇が起こる可能性。
- 支店の統廃合は、経費削減等の**メリット**と、企業や家計への負担増による**デメリット**のどちらが大きいか、大きく地域ごとに異なりうる。
 - 合併により金融機関の体力が維持されることで、融資以外のビジネス（非資金サービス）を含む金融サービスが充実する可能性も。

今後の展望

- 今回の分析では、中小企業貸出に焦点を当てたが、競争度の違いが、預金金利に与える影響はどの程度なのか？
 - 米国では、金利上昇にともない、預金獲得競争と支店統廃合の議論が活発に行われているが、日本でも同様の事態が発生する可能性はあるのか？
- 今後、デジタル化が進み、貸出・預金市場における距離の重要性が低下する可能性も考えられるが、その時に地域銀行に求められることは何か？
 - 企業や家計と金融機関の地理的な近さが失われても、ネット銀行を含めた金融機関による金融サービスの質は維持される可能性。
 - 県内シェアなど、地理的な距離に基づく指標があまり意味を持たなくなるのではないか？

今後の展望

- 人口減少等が進行し、金融機関の間で競争環境を維持できない地域では、どのように価格（＝貸出・預金金利）を規制・監視するのか？
- そうした地域では、貸出金利が上昇する可能性がある一方、非資金サービスの提供を通じたアクセシビリティ確保は行われるのか？